

# よりよい生徒指導に向けて

## 第Ⅱ章 場面指導事例【部活動編】

山口県教育委員会

## 目次

---

### 第Ⅱ章 場面指導事例 【部活動編】

#### I 部活動の意義と顧問の役割

- 1 部活動の意義とは？ ..... 1
- 2 顧問の役割とは？ ..... 1

#### II 意欲的に取り組む部活動

- 1 活動計画を作成する ..... 3
- 2 生徒を主役にする ..... 6
- 3 みんなで支える ..... 10
- 4 安全な運営をする ..... 13

#### III 実践事例

- 1 計画的な実践 ..... 15
- 2 生徒の主体的な実践 ..... 17
- 3 外部指導者と連携した実践 ..... 19
- 4 保護者や地域と連携した実践 ..... 21

#### 資料

- I 部活動の約束 ..... 24
  - II 自己点検健康管理シート ..... 25
  - III メッセージノート、自己評価カード ..... 26
  - IV 指導日誌 ..... 27
  - V 個人カード ..... 28
  - VI 部活動日誌及び個人日誌の活用 ..... 29
  - VII 新入部員オリエンテーション資料 ..... 30
  - VIII 運動部活動における安全対策資料 ..... 31
  - IX 体罰事例にみられる課題 ..... 32
  - X 運動部活動顧問セルフチェックシート ..... 34
-

## ま え が き

部活動は、学校教育の一環として位置付けられ、生徒の健全育成に大きな役割を果たしています。生徒の自主性を重んじ、同好の生徒によって行われる部活動は、望ましい人間関係を育てるとともに、生徒の「社会的な自己指導能力の育成」を図る上で多くの期待が寄せられます。

また、顧問の指導の下、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じつつ、適切に取り組むことによって「生きる力」を育成し、「一人ひとりの夢の実現」に大きく貢献できる活動です。

現在、特色ある学校づくりの一つとして、競技力向上をめざす学校、地域との連携を図り専門的な外部指導者を導入する学校などがあります。特に、生徒指導上の課題の多かった部活動が生徒理解の視点に立った部運営によって、地域からの信頼を回復した例もあります。

このように部活動は、単に生徒の自主的な活動による資質向上と生涯にわたって文化やスポーツ等に親しむ態度を養うだけでなく、学校の教育目標の実現に向けても大きな効果が期待されるものです。

多くの指導者が本編を活用し、各学校においてさらに充実した部活動が展開されることを期待しております。



本書活用のねらい

一人ひとりの夢の実現

人間形成

心

技

体

計画的な実践

深める

生徒の主体的な実践

自主的・自発的な活動

指導

支える

援助

活動計画の作成  
 安全な運営

生徒が主役  
 みんなで支える

学校・顧問

保護者と連携した実践

外部指導者と連携した実践

保護者

つながる

地域

## 三つのキーワード

部活動の究極の目標は、子どもたちの「一人ひとりの夢の実現」です。

これを実現するには、「心」・「技」・「体」の充実した人間形成が求められています。このためには、生徒の「自主的・自発的な活動」に対して顧問を中心にみんなで支援する必要があります。

本書は、この「自主的・自発的な活動」を指導・支援する顧問のための手引書となっています。

「自主的・自発的な活動」として取り組むためのヒントは、次の三つのキーワードです。

### つながる

顧問は、他の教職員、保護者及び地域と連携を図り、部活動の目標や計画等を共有し双方向の情報交換を行うなどつながりを築くことが求められています。このように、内にも外にも開かれた部活動運営は、生徒が主役である部活動を支えるための「基礎・基本」となります。

### 支える

顧問は、適正な目標及び計画に生徒を導くマネージャーであり、技術的な指導を行うコーチであり、心のケアを行うカウンセラーであるなど、生徒の自主的・自発的な活動を支えるための環境づくりが求められています。

### 深める

顧問は、部活動を通じて生徒の心・技・体の充実を図り、生徒自身が可能性を追求するなど人間性を高める援助に取り組むことが求められています。このためには、共感的な態度に立ち、生徒の主体的かつ計画的な実践を深める必要があります。

## よりよい生徒指導に向けて～部活動編～ について

### ■ 特徴

- 部活動を指導・支援する顧問のための資料
- 生徒の自主的・自発的な活動を援助するために、顧問が準備しておかななくてはならない基本的事項を明示
- 生徒がもっている力を引き出し、それを伸ばすことに視点を置き、意欲的な取組となるための留意点を明示
- 中学校及び高等学校顧問の指導実践例を紹介し、顧問の資質向上のためのヒントとして活用するコラムを掲載
- チェックシート方式とし、顧問が実際の場面で活用できる構成  
□ →

### ■ 活用方法

- 顧問会議等で活用
  - \* 部活動運営・生徒指導に携わる教職員の顧問会議等において、研修教材として活用する。
  - \* 部活動運営・生徒指導の全てを顧問一人が抱え込むことがないよう、学校教職員の共通理解を図るために活用する。
- 実践例の活用
  - \* 掲載する実践例を生徒、学校、地域等の実情に合わせ、内容を工夫・改善して活用する。

### ■ 留意事項

- 生徒の実態に合わせた活用
  - \* 本書は、部活動運営、生徒指導の基本的な考え方及び実践例を示したものであり、実際の活用に際しては、生徒の実情等を十分に考慮した上で活用する。

# I 部活動の意義と顧問の役割

## 1 部活動の意義とは？

生徒の自主性を重んじ、同好の生徒によって行われる部活動は、生徒同士が互いに協力し合って友情を深めるなど、望ましい人間関係を育てる上でも多くの期待が寄せられています。顧問の指導の下、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じつつ、適切に行われることによって「生きる力」の育成に大きく貢献できる活動です。

異年齢集団による自主的・自発的な活動を通じて…

### 生涯にわたり運動や文化に親しむ資質や能力を養う

#### ■ 人間性

- 豊かな人間関係
- 充実感、達成感
- 責任感、帰属意識
- ボランティア精神
- 一人ひとりの個性
- 想像力、創造力、表現力
- 規範意識、社会性、協調性
- 地域との交流

#### ■ 知識・技能

- 専門的な知識及び技能
- 課題発見、解決能力

#### ■ 体力・健康

- 体力の向上、健康の維持増進

## 2 顧問の役割とは？

部活動は、自分で課題を見つけ主体的に判断し課題を解決するなど、生徒が自主的・自発的に活動することによって、よりよい行動変容を自ら導き出す社会的な自己指導能力を育む場です。そして、培われた自己指導能力を十分発揮して、「一人ひとりの夢の実現」をめざすものです。

このため、顧問は、生徒の意欲的な取組を導くとともに、個々の生徒の個性を把握し、理解し、その願いに応えられるように努め、一人ひとりの自己実現を的確に支援することが求められています。

#### ■ 管理・運営

- 年間活動計画の作成、広報活動
- 部活動中の事故防止、安全対策
- 部活動の予算管理
- 部活動で使用する施設用具の管理
- P-D-C-A サイクル

#### ■ 連絡・調整

- 担任等との連絡・調整
- 保護者・地域との連絡・調整
- 大会主催者との連絡・調整
- 顧問会議への出席

#### ■ 生徒支援

- 部員の健康管理、カウンセリング
- 部員の生活面での指導
- 部員連絡体制の確立

#### ■ 実技指導

- 実技等の基礎・基本とルールの理解
- 他校顧問、団体指導者等との交流による指導力の向上
- 講習会等への参加による技術・理論の習得

部活動はスポーツや文化の楽しさやすばらしさ、活動する喜びを深く味わうことができ、学校生活をより豊かにする貴重な場です。また、子どもたちに協調性・責任感・主体性、そして体力を身に付けさせることができる大切なものです。

(中学校 陸上部顧問)

部活動は生徒を人間的に成長させる場であるとともに、顧問も生徒とともに成長する場です。

また、他の教育活動では体験することの難しい、より深い人間関係を必要とする集団活動によって、他者を理解・尊重し、自分の能力を最大限に発揮する場でもあります。

(高等学校 野球部顧問)



生徒は部活動を通じて視野を広め、部員との絆を深め、強い意志を培うことができます。また、課題を設定し、主体的に取り組んで解決する力を身に付けることができます。

部活動は長期的・継続的な指導が可能なため、単に、特定の競技や文化活動の技量を高めるだけでなく、生徒の人間的な成長を支援できる重要な機会です。しっかりとした目的の下に指導を行うことが大切です。

(高等学校 生物部顧問)

部活動は将来豊かに生きていくための社会性を身に付ける場です。

(高等学校 ハンドボール部顧問)

心身ともに成長期にある中高生にとって、部活動は必須の栄養素と言えるものと思います。当然、学校の教育課程内で学ぶべきことは多いのですが、それだけでは補えない大切な経験ができます。同じ目的をもつ仲間とのかかわりの中に、困難に立ち向かう力、協調性や体力の向上などが期待できます。

教育課程外の活動とはいえ、学校教育活動の一環としての部活動だからこそ有益性があると思います。

(中学校 剣道部顧問)



## Ⅱ 意欲的に取り組む部活動

### 1 活動計画を作成する

#### (1) 目標づくり

部活動を運営していく上で大切な点として、目標づくりが挙げられます。部あるいは個人の進むべき道を明確にすることで、部活動は活性化され、生徒が意欲的に取り組むことができるようになります。

目標づくりは、長期的なもの（部目標、年間目標）、中期的なもの（月目標）、短期的なもの（週課題、日々の課題）というように細分化して作成する必要があります。

特に、中学生にとっては、初めて体験する部活動であることに加え、体の各器官が急速に発育・発達する時期であるため、目標設定には配慮が必要です。

また、顧問は、行き過ぎた指導や過度な活動とならないように、適切な休養日を確保することや効果的な練習による練習時間の短縮に努めるなど、「生徒の生活のバランスの確保」の面に配慮する必要があります。



#### (2) 活動計画の作成

部活動は、教育活動の一環であり、生徒の自主的・自発的な活動であるという本来の趣旨を大切にすることが重要です。顧問は、生徒一人ひとりの夢の実現に向けて、個性を把握・尊重し、年間を通じた活動について、様々な工夫をする必要があります。

また、専門性、技術及び体力の維持・向上を図るだけでなく、学校行事や生徒会活動等とも密接なつながりをもたせ、学校教育目標やめざす生徒像を踏まえるとともに、生徒自身が組織的・主体的な運営をする実践力を育てる場としても部活動を位置付けるよう配慮して計画を立てる必要があります。

#### (3) 活動計画の周知

部活動の基本姿勢を明らかにした上で作成した年間計画を生徒に示すだけでなく、保護者会を開き、保護者や関係者へ事前に知らせておくことも重要です。

また、学期又は月ごとの計画及び参加する大会や合宿等の計画なども作成し、生徒及び保護者へ早期に示します。

生徒の心と体は、特に大会・試合などでの感動体験によって大きく成長していきます。一方で日常の部活動では、時には忍耐を伴うこともあります。このため、よりよい成果を残すためには、年間を通じて綿密な計画の下での実践が不可欠です。



#### (4) 実行と改善

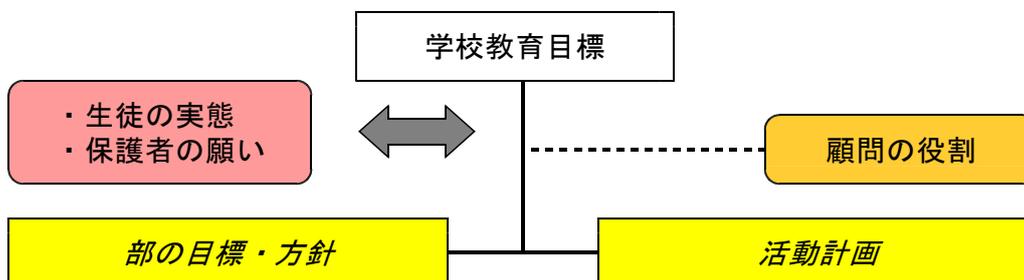
作成された計画に基づいて練習する際に、決めたことを単に実行するだけではよりよい成果は望めません。絶えず、生徒自身が自己の活動を見つめ、課題を見つけ、チェックし、改善するというP-D-C-Aサイクルに基づいた活動を行うことが大切です。場合によっては、目標や計画を修正する必要があります。

このため、これらの活動が定着するまでは、顧問の助言・アドバイスが必要となり、顧問は優れたカウンセラーとしての資質も求められます。

##### ■ 目標が生きる・活動が生きる

- 一人ひとりのよさが生きる目標づくり
- 自ら進んで取り組む活動計画の作成と活用
  - ・長期を見通した年間計画
  - ・顧問とともにつくる月間計画
  - ・目標や課題を意識した週及び日々の活動計画
- 部活動のP-D-C-Aサイクル
  - ・授業と同じ発想で部活動改善
  - ・課題のチェックと次のステップへのアクション
- P-D-C-Aサイクル化で生き生き活動
  - ・主体的に取り組む部長会（リーダーの育成）・部活動部会（自主性の育成）

##### ■ 活動計画づくりの留意点



- 部目標の設定
  - ・活動方針
  - ・生涯学習の基礎を培う
  - ・ミーティングの重要性
- 具体的な目標の設定
  - ・年間目標・月目標
  - ・大会等に合わせた目標
- 運営方針の決定
  - ・部員の自主性・自発的活動の尊重
  - ・個性の尊重
  - ・柔軟な運営計画
  - ・生活とのバランス
  - ・生徒の健康管理

- 年間活動（指導）計画の立案
  - ・活動方針や目標の実現に向けた具体的な計画
  - ・準備期、強化期、試合期、移行期などを踏まえた計画
  - ・新入部員に対する指導計画
- 部員と顧問がつくる活動計画
  - ・目標や課題を意識した練習計画
  - ・効果的な練習方法
  - ・個に応じた練習計画
  - ・合宿や対外試合、大会等の有効活用
- 事故防止に向けた計画
  - ・講習会、栄養指導 等

重要な大会までの練習期間を5期に分けて、それぞれの時期の日数を何をすべきか、具体的な内容を各個人やチームに決めさせています。

これをもとに、練習日程表を作成し、毎学期保護者へ配付し、連携をとっています。

(高等学校 剣道部顧問)



高いレベルの競技力をつけるためには、当然、厳しい激しい練習も必要になってきます。その過程で指導者が生徒に対してどのような声かけをしているかが自主的・自発的な活動をする上での重要なポイントとなります。

私自身、練習中厳しく指導することはありますが、生徒への励ましを大切に考えています。また、キャプテンを中心として生徒が自ら考え前向きに活動しているときは、その練習方法をできる限り尊重します。

さらに、長期的目標（半年後）、短期的目標（1か月後）などを短冊に書き記し、練習しながら確認できるようにします。

(中学校 バスケットボール部顧問)

生徒の能力、性格、特性等を考慮し、短期、中期、長期的な目標を示すことを大切にしています。子どもたちは、目的と意欲をもてば自主的に取り組むことができると思います。目的や意欲は、明確な目標と達成感の積み重ねによって得られるからです。

ただし、活動については、常に顧問のチェックが必要で、すべてを子どもたちに任せるべきではないと思います。

(中学校 陸上競技部顧問)

練習計画（練習内容等）を立案する際に、生徒の意見を取り入れるようにしています。

ただし、それをそのまま実施するのではなく、顧問が中長期目標や課題解決の優先順位等により、適切な方向へ修正するなどのコントロールを行います。

(高等学校 ハンドボール部顧問)



## 2 生徒を主役にする

### (1) 部活動における顧問と生徒

部活動は、自他のよさを認め、友情を広げる交流があり、各種大会や発表会の結果に涙する心の陶冶（とうや）があり、次の目標に向かうことができる活動です。

こうした部活動では、各種大会等での結果だけでなく、それまでの目標の位置付けや目標に近づくための努力過程（プロセス）がより重要になります。

このような状況の中で、顧問は部活動を通じて生徒の成長を援助・支援するとともに、健全育成に向けて自己肯定感を育み、自信をもたせ、生徒が主役となる指導が必要となります。



#### ■ 部活動の目的

- 生徒の個々が目標をもち、個性を伸ばそうとする自主的な活動である。
- 「勝つことへのあくなき追求」「体力を鍛えること」「心を鍛えること」等いろいろな目的をもち、様々な効果を生み出す活動である。
- 個々の目的だけで語られるものではなく、高い人間的な価値を生み出す活動である。

#### ■ 部活動における顧問の援助・支援の例

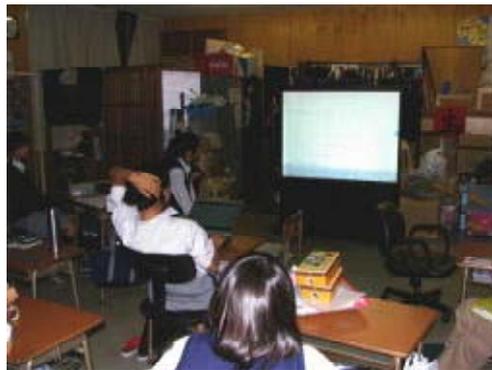
- 生徒が自主的に調べたり考えたりする資料として、「本やビデオ」の整備に努め紹介する。
- 活動は生徒のリーダーを中心に行い、顧問はアドバイスを主にする。
- 技術・技能の基礎・基本、生活のしつけ面は顧問が指導し、生徒たちの内面的な自覚と定着を促す。
- 「自己の特性の正しい理解」「めあての意識化」「課題克服の手だて」「目標達成のための継続的な努力への意欲」などの援助に努める。
- 活動計画の立案、修正、アドバイス、練習試合の日程調整などのマネジメント能力を磨く。



## (2) 生徒の成長の機会

各種大会・発表会などへの参加は、生徒の成長の機会の一つとして重要です。

互いに競い合うことや発表を見てもらうことは、個人やチームの現状や課題が明らかになり、目標に向かって進んでいく契機となります。特に、高校生ではより高度なものを求めるようになることから、生徒一人ひとりの欲求を満たすことのできる取組が望まれます。



また、大会や試合は、生徒にとっては非日常的な体験であり、興奮や緊張に適応することが求められる場でもあります。生徒自身にとって、練習以上の力を引き出せることもあります。逆に、過度な興奮と緊張から不安定になり、もっている力を十分に発揮できないこともあります。大会でよい成績を収められないと過剰な責任感から罪悪感や挫折感につながってしまうこともあるので、一人ひとりの生徒の精神面への働きかけが必要です。

生徒の自主的・自発的な活動のために次の点に気を付けています。

- ① 明確な目標設定（チームとして、個人として）  
チームとしてどこに最終目標を置くのか、そのために、一人ひとりやチームが何をすべきか等、進むべき方向性を明確にします。
- ② P-D-C-Aサイクルでステップアップ  
自分やチームの目標達成のために、試合ごとに反省と課題を出させ、その時点でのレベルを認識させるとともに、次のステップのための目標設定を行わせています。
- ③ 何のためにするのか理解させてから活動実施  
練習の目的や目標をきちんと理解させてから行っています。自主性や自発性は、目的意識と自分の位置（レベル）が明確に認識されていなければ生まれないと考えます。
- ④ 待つ  
課題克服の段階で、失敗や挫折も当然ありますが、すぐに答えを出したり答えを導いたりしないように我慢する場合があります。失敗した原因を自分で考え、解決する能力を高めることも自主性を引き出すことに重要なことだと考えます。待つことはもどかしいですが…。ただ、時期やタイミングは考えるべきです。

(高等学校 剣道部顧問)

## (3) 大会や試合に出られない生徒の指導

運動部活動では「ユニフォームを誰がもらうのか」、文化部活動でも「誰がオーディションに通るのか」というように、全員が大会や試合に出られるとは限りません。「試合に出られない」あるいは「舞台に立てない」生徒が、モチベーションを持ち続けられるようにする工夫が必要となります。

特に、運動部活動においては、試合に出る機会が少ない生徒のモチベーションが下がることがあります。すべての生徒に、責任感をもって進んで取り組めるような役割を与えること、練習試合など活躍できるような機会を設定する等の様々な工夫が必要です。さらに、チームとしての一体感を生むためにも、日ごろから控えの立場にある生徒に対し、感謝する心を部活動全体の中であつておくことも大切です。



また、大会や試合の結果だけにとらわれることなく、大会や試合に至るまでの過程を重視するとともに、仲間や指導者、相手の学校、応援してくださる方など、部活動内外の多くの人々との多様なかかわりを体験し、共感できることも部活動の大きな意義です。

こうした体験は、豊かな人間性の育成につながります。

#### (4) 部活動としての活躍の機会

部活動の成果発表の場は、大会や試合だけではありません。部活動を通じて培われた健全な心やボランティア精神などは、学校の中だけにとどまらず地域に出てもその成果を発表できる場があるはずです。

例えば、学校行事において演奏や発表などの活動の場を提供することで参画意識を高める方法が考えられます。入学式での音楽演奏、体育大会、入部説明会での実演、文化祭等の文化的行事のステージ発表など、部活動としての活躍の機会を位置づけることで、生徒の意欲や達成感を高めることができます。

また、練習試合や定期演奏会等、保護者にも連絡し、生徒が活躍する様子を見せる方法もあります。部活動によっては、地域行事や社会奉仕活動に参加している場合もあります。



部活動は生徒が主役で活動する場であるため、顧問が一方的な理想を押しつけて自己満足に終わることがないように心掛けています。生徒それぞれの能力を最大限に発揮できるよう、顧問は生徒を支援する立場をとることが、自主的・自発的な活動につながると考えています。

(高等学校 硬式野球部顧問)

#### ■ 顧問が配慮すべき事項

- 結果だけではなく、それまでの努力過程（プロセス）を評価する。
- 試合・大会に出場できない生徒にも、練習試合や定期演奏会等の発表の機会を設定する。
- 地域行事やボランティア活動に参加する。
- 生徒のモチベーションが低下している場合、その状況を分析し、対策を講じる。

私は、悩みや失敗が生徒を成長させると考えています。

①「2：8の原理」

現在の自分が2の能力や状態であっても、8の相手に勝つためにはどうすればいいのか。よい部分が2しかない者が8つもの改善点を克服しようとした場合、つぶれてしまう可能性の方が高い。そこで、一つ二つ克服すべき点を努力しながらも、長所を確実に100%発揮できるようにしたり、伸ばしたりすることで、2が3に、3が4になっていくことをめざすという考え方、ポジティブシンキングをもたせます。

②「良いのも自分、悪いのも自分」「強いのも自分、弱いのも自分」

失敗・成功要因は、自分の性格・実力・資質等の要因が前提にあるものです。特に、失敗したとき、こうした自己認識ができていない生徒は、ひどく落ち込むように感じます。自分を知り、他者を知ることが精神回復やはい上がる力になると思います。立ち直りは、すべての自分を認めることから始まると思います。

③肯定と否定のことば

試合や練習でつまずいたときは、悪い点や改善点ばかりを指摘するのではなく、良い点も合わせて伝えるよう努力しています。

(高等学校 剣道部顧問)

私は演劇の専門家ではないので、どのような支援や工夫が適切なのか分からないことが多くあります。

ですから、モチベーションの下がった生徒とは、カウンセリング的な態度で話を聞き、自分で進むべき方向性を生徒自身が見つけられるようにしたいと常々思っています。

(高等学校 演劇部顧問)

「ほめて育てる」が基本姿勢です。よいことは誉めるのはもちろんのこと、ミスをして、挑戦（トライ）してのミスなら、しかるより挑戦したことを評価してあげます。そうすると、さらに積極的になります。

しかった後は、必ず様子を観察して、改善しようとしたり、実際に改善できたりした場合はほめることを忘れません。

(高等学校 サッカー一部顧問)



「試合に負けたのはすべて監督の責任、勝ったら君たちの実力」

「先生を信じろ！ 自分を信じろ！ それ以上に仲間を信じろ！ 君ならきっとできる」

「はじめから自信のある人なんていやしない。自信なんて、やった後からついてくるものだ。大切なのは、自分から進んで取り組む意欲があるかどうかだ。」

このような声かけをしています。

(中学校 ハンドボール部顧問)

### 3 みんなで支える

#### (1) 顧問会議の開催

より効果的な指導・支援を行うための意見交換等の場として顧問会議があります。顧問が、部活動において生徒や保護者等と接する際に、不安や疑問に思っていることについて、多くの先生方の意見や体験談を聞いて参考にすることは、課題解決の有効な手段となります。

また、顧問、クラス担任、教科担任、生徒指導担当者等を含めた校内組織体制を構築し、日ごろから情報を共有し連携を密にすることが、事故やトラブルを未然に防ぐとともに、学校運営の一助になります。

#### (2) 保護者との連携

保護者の部活動に対する考え方は様々です。「毎日、厳しく鍛えてほしい」という要望もあれば、「楽しく部活動をさせてほしい」と考える保護者もいます。また、生徒と保護者との意識に大きな違いがある場合があります。家庭で部活動のことがよく話題になるとはいっても、子どもとの会話だけでは部活動の情報としては十分とはいえません。部活動の指導方針等について、各家庭の理解と協力を得るためにも、定期的に保護者会を開くなど、保護者との連携方策を確立することが大切です。



特に中学生の場合、入部当初は保護者が部活動に対し不安に思う場面が多く見られます。「部活動だより」を配布する等、保護者に活動状況をきめ細かく説明することが必要です。

#### ■ 顧問会議に関する確認事項・保護者との連携を深める方策

- 顧問会議を校内組織に位置付け、計画的に会議を開催し意見交換をする。
- 各担当者間の報告・連絡・相談体制を整備する。
- 部活動懇談会・保護者会・見学会を定期的に実施する。
- 部活動通信の発行・大会の案内等の情報提供をする。
- 各家庭から徴収した部費等については、必ず会計報告を行う。
- 緊急連絡先・連絡網の整備や保護者からの相談を受ける体制の整備をする。

なるべく多くの保護者に練習や試合の様子を見に来てもらっています。また、保護者の名前を覚え、試合会場などでは最近の子どもの様子（特に控えの選手）を自分から話しかけるようにしています。

さらに、部活懇談会とは別に定期的に会合を開き、部活動に関する保護者の思いや要望を聞くようにしています。保護者の方々の理解と協力は部活動の運営に不可欠です。

(中学校 バスケットボール部顧問)

### (3) 地域との連携

部活動は学校教育活動の一環として展開されています。地域の方が子どもたちの一生懸命取り組んでいる姿を目にしたたり、優秀な成績を収めたりすることによって、地域の方からの励ましや賞賛があります。このことは、生徒にとっては大きな支えとなります。



また、部全体で地域行事や社会奉仕活動に参加することによって地域との交流が活発になり、学校と地域の絆が深まります。その他にも、地域総合型スポーツクラブ、各種スポーツ少年団や文化サークルなど、幅広い年齢層との交流により、活動意欲の向上が図られます。

開かれた部活動をめざす上で、校内の活動だけではなく、地域の実態に即してより積極的に連携を図ることが大切です。このような取組を通じて生徒の社会性の育成を一層育むことができます。

### (4) 外部指導者や卒業生との連携

部活動は必ずしも専門の指導者が顧問になるとは限りません。この場合、顧問は専門的な技術指導ができないことに悩み、このことによって生徒は不安定な活動を続けることもあります。また、最近では生徒や保護者の多様なニーズに対応できず、顧問の指導力不足に悩む学校もみられます。



このような場合には、地域から専門性を有する指導者を招き入れ、その力を借りながら生徒を育てるシステムを導入することで課題解決をめざすことができます。また、卒業生によるOB会が組織化されることによって指導スタッフが充実し、生徒一人ひとりの個性にあった魅力ある活動が生まれ、意欲的な活動につながったという好結果も報告されています。

#### ■ 地域や外部指導者・卒業生との連携を深める方策

- 地域の行事やボランティア活動に参加する。
- 地域へ学校だより等を通じて部活動状況や各種大会・コンクール等の結果を伝える。
- 外部指導者を導入する体制整備をする。
- 卒業生の会があれば活動状況等を伝えバックアップ体制を整備する。



「部活動が忙しくて学習ができない」  
「学習しなければならないから部活動  
ができない」の両方とも間違いです。  
学習と部活動は、時間の有効な使い方、  
自分の集中力によって必ず両立できる  
ものです。

授業や家庭学習を確実にやり遂げら  
れる人が、部活動でも上達していく人  
です。

(中学校 吹奏楽部顧問)

保護者は、わが子が輝き、変容して  
いくことで、活動について必ず理解し、  
協力してくれるようになります。まず  
は、生徒一人ひとりに情熱をもって接  
し、愛情を注いで指導した上で、育て  
て、伸ばしてやるのが大切ではない  
でしょうか。

(中学校 卓球部顧問)

野外での活動が多いため、安全面  
に細心の注意を払っています。生徒  
を引率する場合は、詳細を文書にて  
お知らせし、活動状況や成果につい  
てもできる限り保護者にお伝えする  
よう努めています。

本校は遠くから通学する生徒も多  
く、生物部の中には、研究のために  
早朝や休日にも保護者の送迎を必要  
とする生徒もいます。

日頃から保護者には様々な負担を  
強いることが多いため、まずは、活  
動に対する理解を得ることが大切だ  
と思っています。

(高等学校 生物部顧問)

どの学校でもやっていることとは思  
いますが、部活動懇談会(フォーマル)  
は大切です。その場で、顧問である私  
の部活動運営方針等を保護者に説明  
し、理解と協力をお願いします。

また、多忙な保護者も多くなってき  
ていますが、機会をとらえて、生徒と  
保護者を交えてインフォーマルな話し  
合いを行っています。このインフォー  
マルな話し合いの中で、意外と前向き  
な意見が生まれるものです。日頃、顧  
問として厳しい指導をしていますが、私  
の違った一面を知っていただくこと  
で、連携を図る予想外の効果を上げる  
こともあります。

(中学校 バスケットボール部顧問)



## 4 安全な運営をする

### (1) 事故防止をめざして

学校や顧問は、部活動についても授業中や学校行事と同様、生徒の安全に最大限の配慮をしなければなりません。

事故は、運動部活動だけに起きるものではありません。例えば、演劇部の舞台練習中にステージから転落してケガをしたり、化学部の実験中にフラスコが破裂してケガをしたりすることもあります。

また、体調が悪いときに無理をして練習に臨んだために、練習中や練習後に倒れることも考えられます。

また、運動部では生徒自身のケガばかりではなく、ボールが外へ飛び出して近隣の家屋等に損傷を与える可能性もあり、学校として、未然防止などの対応を考えておかなければなりません。

さらに、顧問は安全面での管理や指導を行うだけでなく、生徒自身が危険を予測し、回避する能力を育むよう支援することも望まれます。



#### ■ 事故防止のための留意点

- 生徒の心身の発育・発達や体力・技能等を的確に把握して活動計画を立てる。
- 生徒の生活状況や体調等に応じた活動にする。特に、新入部員の健康管理には留意する。
- 光化学オキシダント情報や天候等の状況を常に把握する。
- 外部指導者や保護者などとの連携・協力により安全を確保する。
- 施設・設備・用具の点検はもとより、騒音等近隣住民に迷惑がかからないよう配慮する。
- 安全な実験や用具の使用方法、薬品の管理・取扱等について指導する。

### (2) 校内救急体制の整備

部活動には、ケガや事故につながる可能性が潜んでいることから、ケガ等を未然に防ぐために生徒自身の危機管理能力の向上と、施設や備品等の充実を図るとともに、万一の事態に備えた校内救急体制等を整備することが学校や顧問に求められています。



特に、運動部・文化部を問わず熱中症等が発生することがあることから、部活動の指導に当たる顧問や外部指導者は、個々の生徒に対して安全面の配慮を徹底する必要があります。

判例によると、教員には、学校における教育活動と、これに密接に関連する校内外における生徒

の生活の安全確保に配慮すべき義務（安全配慮義務）があるとされ、万一事故が発生した場合には、被害の拡大と二次被害の発生を阻止する事後措置義務が、安全配慮義務に含まれるとされています。

■ 救急体制整備のための留意点

- あらゆる不測の事態を想定した救急体制のマニュアルを作成する。
- 保護者への連絡がいつでも速やかにとれるようにしておく。
- 休日の活動の際には、当番医等の確認をする。

過去に、ファウルボールが学校周辺の民家に当たり、迷惑をかけたことがあります。

これを踏まえ、現在は周辺の地域の方々へ練習内容等の説明を行うだけでなく、練習の実施場所や練習内容を工夫・改善し、生徒にも指示の内容を徹底するとともに、ボール等用具の管理方法も改善することとしました。

（高等学校 硬式野球部顧問）



屋外の活動ですから、強風によりゴールが倒れることがないように、固定状況を常に確認しています。

また、周囲に高い建物が無いグラウンドでの活動だけに、夏場は特に落雷事故が発生しないよう、天候の急激な変化には十分留意しています。

（高等学校 サッカー部顧問）

部活動は顧問が生徒と一緒にになって取り組むものと思っています。特に、ケガや事故につながりやすい運動部では細心の配慮が必要です。

学校で活動しているときの事故であれば、養護教諭もいるので応急手当もできますが、学校外での活動では、緊急時の対応方法をあらかじめ決めておく必要があります。

（高等学校 ラグビー部顧問）



## Ⅲ 実践事例

### 1 計画的な実践

部活動は、本来生徒が自分の能力・適性、興味・関心などに応じて自主的・自発的に取り組む活動です。部員一人ひとりがその個性を十分に発揮して活動を展開できるように工夫する必要があります。そして、部活動運営も可能な限り生徒の自主的な運営となるように支援します。

#### (1) 活動目標の設定

部活動は学校教育活動の一環として重要な活動であり、その教育的意義を全校生徒、保護者、教員で共通理解することが必要です。

このためには、学校全体で部活動の「活動目標」や、運動部・文化部それぞれの「活動基本方針」を設けて、これらの活動をすべての部で推進していく体制を整備します。

#### △△高等学校 部活動の活動目標

- 1 部活動に主体的に取り組む生徒を育てます。
- 2 部活動の望ましい在り方を実践的に明らかにします。
- 3 部活動のもつ学年を越えた自発的な活動を通じてそのエネルギーを学校全体の活性化に役立つようにします。

#### △△高等学校 運動部活動の基本方針

- 1 運動部加入生徒の増加を活動の活性化目標とし、生徒相互の自主的な活動を通じて学校生活全般に意欲的に過ごす生徒を育てます。
- 2 技能や技術の向上を図り、競技力向上をめざすとともに、広くスポーツに親しむ態度を育成します。
- 3 保護者との連携を図り、スポーツ活動を通じて健全な生徒の育成に努めます。
- 4 安全に留意し、事故や災害の防止に努めるとともに、よりよい練習環境の保持に努めます。

#### △△高等学校 文化部活動の基本方針

- 1 文化部加入生徒の増加を活動の活性化目標とし、生徒相互の自主的な活動を通じて学校生活全般に意欲的に過ごす生徒を育てます。
- 2 想像力・創造力・表現力の向上を図り、個性の伸長をめざすとともに、広く芸術・文化・科学に親しむ態度を育成します。
- 3 保護者との連携を図り、芸術・文化・科学活動を通じて、健全な生徒の育成に努めます。
- 4 学校外へ積極的に出向き、日頃の活動成果の発表に努めます。

次に、部員が自分の所属する部の活動を積極的に行うためには、所属部ごとの活動目標も必要です。そこで、顧問、キャプテン、部員全員の協議により、「部活動年間活動計画」を作成することが大切です。

その際、学校行事や部活動関連行事などを1年間又は3年間を見通した活動展開を考慮し「活動目標」と「運営目標」も設定します。

### 平成○年度 部活動目標

部	活動目標	運営目標	部	活動目標	運営目標
剣道部	あいさつを重んじ、体力・技術・精神力を養う。 県大会の団体戦で予選突破をめざす。	剣道を通じて、基本的な生活習慣の確立と目標を定め、目的意識を持って自主的かつ意欲的に活動する。	バスケットボール部	情熱と魂の部活動を実践する。 県大会ベスト8をめざす。	個人の目標を明確にし、目標に向かって挑戦する気持ちを継続させ意欲的に活動する。
陸上競技部	粘り強い取組で、人間性の向上を図る。 自己記録を更新し、県大会で優勝をめざす。	目標・課題に向けて積極的に取り組み、継続した努力ができるようにけじめある態度を身に付ける。	バドミントン部	チームワークを日本一にする。 県大会、個人・団体ともにベスト4をめざす。	チームワークを大切に、部員相互の励まし合いと目的達成の喜びを醸成する活動とする。

### 剣道部 平成○年度 活動計画

活動目標：県大会での団体戦予選突破と県強化指定選手の育成強化をする。

運営目標：剣道を通じて、基本的な生活習慣の確立と目標を定め、目的意識を持って自主的かつ意欲的に活動する。

学期	月	学校行事	部活関連行事	活動内容	支援・助言
一 学 期	4	入学式 対面式		<ul style="list-style-type: none"> <li>△△錬成会での反省を練習に生かし、年間を通しての全体の共通した目標と個々の目標を確立させる。</li> <li>2, 3年生による1年生(新入部員)への指導徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に目的意識をもって練習するよう心がける。</li> <li>新入部員、特に初心者に対する指導を工夫する。</li> </ul>
		生徒総会	県高校錬成会	<ul style="list-style-type: none"> <li>試合練習を中心とした、チームとしてのレベルアップを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力(持久力)の向上をめざす場とする。</li> </ul>
	5	中間考査	地区大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>地区大会に向けての目標確認</li> <li>地区大会の反省と県総体への志気を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>男子と女子の共通練習と男女別の練習内容を工夫する。</li> </ul>
	6		県総体 中国大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>県総体へ向けての目標確認と体調維持及び士気高揚を図る。</li> <li>団体戦と個人戦のそれぞれの目標確認</li> <li>得意技の習得に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生を中心としたチームワークづくりと先輩から後輩への指導と意思継承を促す。</li> </ul>
7	期末考査 終業式 夏季休業		<ul style="list-style-type: none"> <li>新チームとしてのスタートと目標の設定</li> <li>基本練習の徹底 構え 足さばき 素振り 基本打突の反復練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新チームの自覚と目標を認識させる。</li> <li>初心にかえって基本動作の習得を徹底する。</li> </ul>	

## (2) 広報活動により活動成果を報告

部活動の成果と活動の達成感を顧問と部員だけの喜びとせず、保護者、教員の共通の喜びとしても共有すれば、なお一層の活動意欲の喚起と競技力の向上にもつながります。

そこで、学校全体で部の活動成果を共有するための工夫として、集会活動の活用、部活動掲示板の活用、部活動新聞の発行、垂れ幕や賞状の掲示などが有効です。

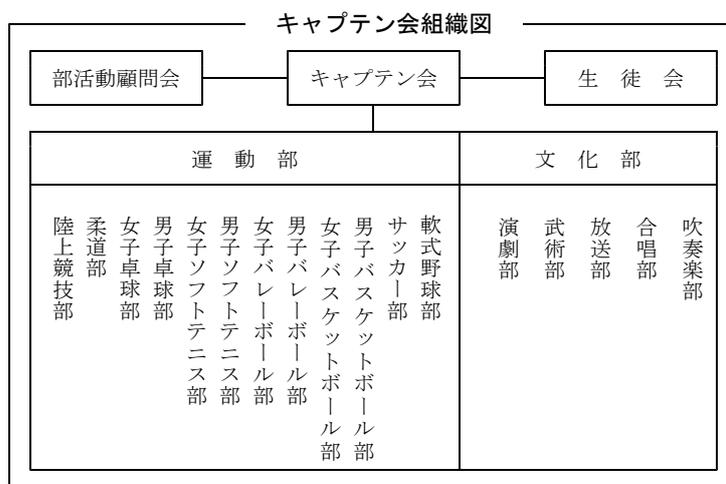
## 2 生徒の主体的な実践

部活動の自主的・自発的な運営のためには、リーダーの存在が不可欠であり、果たす役割は大きな意味があります。ここでは、今までとかく顧問の指示の下に活動が進められがちであった部活動の運営を見直し、リーダーを中心としながら、生徒が主体的に活動できる部活動をめざした取組について説明します。

### (1) キャプテン会の実施

リーダーの育成をめざし、毎月1回の割合で各部活動のキャプテン全員で構成するキャプテン会を実施します。部活動規定の確認やそれぞれの部活動が現在抱えている課題や要望などの話し合い、大会・行事に向けた取組の検討などが主な活動内容です。

右図は、キャプテン会の組織図例です。部活動顧問会や生徒会ともタイアップして、情報交換を密接に行うことにより、部活動規定を徹底できます。また、新入生への部活動紹介や体育祭など学校行事に対する役割も明確になります。



第1回のキャプテン会では、会の趣旨や活動状況、校内部活動規定の確認、そして会長や副会長の選出を行います。最初は部活動担当教員が司会や指導をしますが、2回目以降は、生徒の自主運営とし、担当教員は助言や援助をします。会の前日までに、キャプテン会の役員と、次回の議題内容について簡単に打合せをしておくこととスムーズに進行できます。



キャプテン会での話し合いの内容や決定事項は、その都度キャプテンが部員にミーティングで報告し、部活動掲示板にも記載して、全校生徒に周知します。こうすることによって、学校全体の部活動に対する理解と活性化につながります。また、キャプテンのリーダーシップの向上にも結びつきます。

キャプテン会 年間計画 (案)			
4月	校内部活動規定確認 新入生への部活動紹介について	9月	新キャプテン会の組織について
5月	活動状況・大会結果報告 部活動予算について	10月	新人戦に向けて
6月	活動状況の報告 問題点・課題の洗い出し	11月	情報交換及び諸問題解決
7月	夏季休業中の活動 夏の健康管理について	12月	冬期休業中の活動
		1月	登記トレーニング講習会
		2月	情報交換及び諸問題解決
		3月	1年間の反省 春季休業中の活動について

## (2) キャプテンを中心としたミーティング

生徒が主体的に部活動に取り組むためには、部活動の運営に生徒の意見を反映させることが重要です。

そこで、生徒相互の意見交換や活動内容の理解及び徹底を図るために、キャプテンを中心としたミーティングを充実させます。ミーティングは、活動前後に加え、活動中も適宜



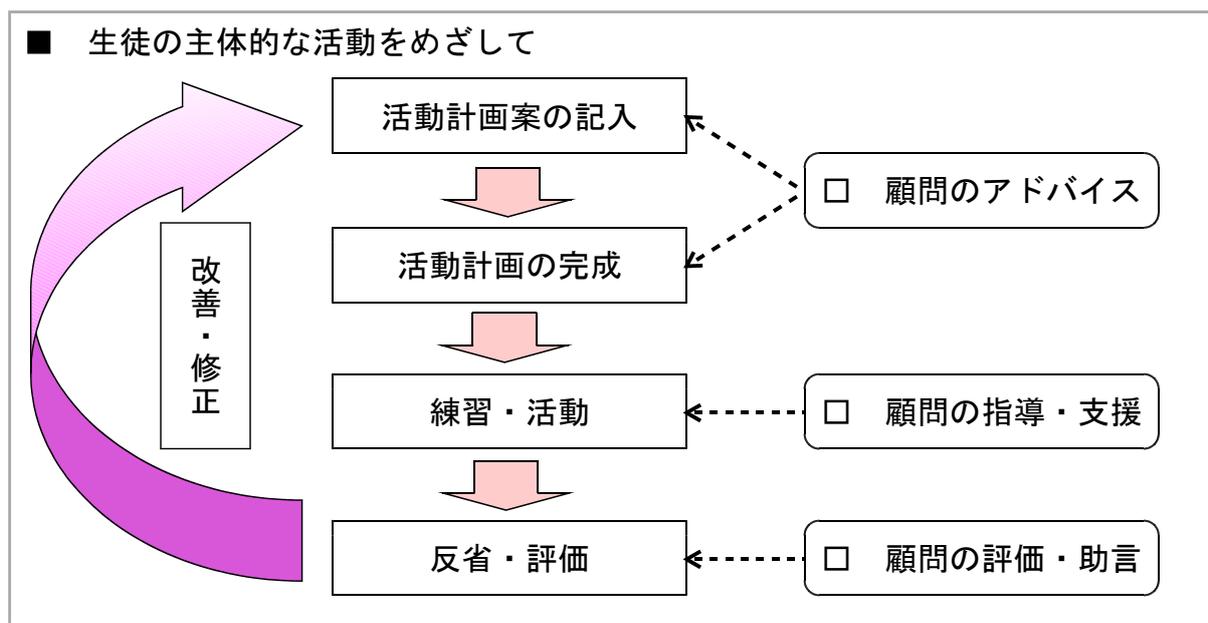
ショートミーティングを実施します。特に、活動内容や目的を明確にし、生徒相互で理解することは、活動の意欲を高めることにつながります。

また、週1回の休養日にも必要に応じてミーティングを実施します。ミーティングの内容は、部活動日誌を持ち寄り1週間の活動内容などの反省や戦術面、技術面の理解や検討、生徒相互の人間関係に関することなどです。

## (3) 主体的な活動をリード

生徒の主体的な活動を促すには、生徒自らが活動計画を立て (Plan)、実践し (Do)、反省・評価し (Check)、改善する (Action) というサイクルが必要になります。下図は、日々の活動における生徒と顧問のかかわりを表したものです。顧問は、学年・技術・体力・運動特性・学校の特徴などを考慮して、合理的で効率的なアドバイスをします。全体でのミーティング時は、キャプテンやリーダーに進行を任せ、時間が多少かかっても自分たちで解決をしていくことが重要です。

なお、初期段階においては、顧問から部活動に対する心構えをしっかりと伝えることが大変重要です。

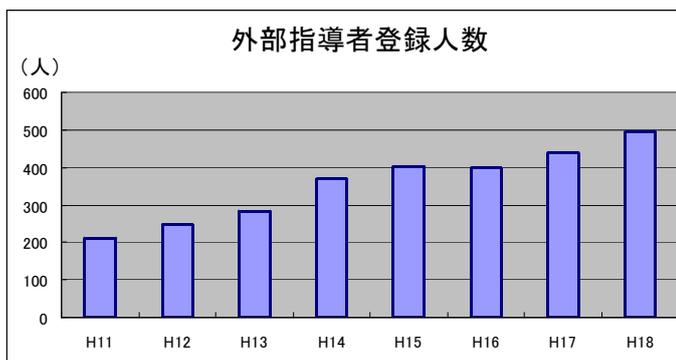


### 3 外部指導者と連携した実践

部活動の在り方については、生徒のニーズが多様化しています。一方、生徒及び教職員の人数や施設・設備、教職員の部活動指導のキャリアなどから、生徒が活動したいと願っても、実際には部活動を設置できないといった学校事情が生じています。時には、部活動の存続問題にまで発展することがあります。

今後は、学校・顧問の実情にあわせて、実技指導の部分を地域の協力者（外部指導者）に依頼し、顧問と外部指導者が協力して生徒の技能の向上や活動の欲求を充足するなど、部活動の在り方を柔軟に考え、活性化を図っていくことが必要です。

こうした中、ここ数年、外部指導者を導入する学校が増加しています。（右図参照。）外部指導者との望ましい関係の在り方について考える必要があります。



（山口県中体連調べ）

#### （1）外部指導者の導入

生徒は、部活動に対して「技術の向上」や「友達と仲よく活動すること」、「体力の向上」などを挙げ、より質の高い満足感を望んでいます。一方、指導する顧問からは、実技指導の不安などの声が多く見受けられます。このような場合、従来どおり顧問は教員としながら、実技指導を外部指導者に依頼し、生徒の多様な欲求を充足するなど部活動の在り方を柔軟にとらえ、改善していくことも有効な手段となります。

##### ア 学校の部活動にふさわしい人を選ぼう

実技指導を通して直接生徒の指導に携わる人ですから、次のような事柄について配慮します。

- （ア）部活動の意義や目的を踏まえて生徒に接することができるなど、専門的な技能、指導力等が優れている人
- （イ）顧問と協力し、指導方針を理解し、熱心に指導してくれる人
- （ウ）ボランティア活動に理解があり、日頃から継続して指導してくれる人

##### イ 外部指導者を導入するときの「きまり」をつくろう

外部指導者を導入するときには、事前に、学校の方針や指導の在り方、役割や条件、人選や任命の仕方などについて「外部指導者導入のきまり」をつくり、教職員の共通理解を図ることが必要です。その際、生徒及び保護者の意見を十分配慮するとともに、中体連等で定められている大会における外部指導者の位置付けや役割についても説明するようにします。

##### ウ 顧問との役割分担を明確にしておこう

部活動は学校教育活動の一環として行うものですから、運営や活動計画の作成などは顧問が中心となって行い、外部指導者は顧問と協力して計画に従い、

主として技術指導をするなど役割分担をはっきりさせ、理解を得るようにします。

## エ 外部指導者との連携を図ろう

外部指導者の中には、生徒を指導した経験のない人や、反対に競技団体の指導員や地域のクラブで指導している技術指導のベテランもいます。

また、生徒にとっても顧問と異なる指導を受けることに戸惑う場面などがあります。

このため、外部指導者と顧問との役割分担や指導の在り方、さらには練習試合や競技会に参加するときの約束などについて、保護者代表を含めた連絡会を設置し、定期的に会合を開きながら十分話し合うようにします。

## (2) 円滑な導入

外部指導者の導入をスムーズに行い効率よく活動していくために、下図のような「外部指導者の導入について」を作成し、職員会議、部活動保護者会、キャプテン会議等を通じて理解を深めるようにします。

※ 「外部指導者の導入について」作成例

□□中学校 外部指導者の導入について	
	△△市立〇〇中学校
1 目的	
(1) 生徒の技術の向上を図り、部活動での満足感・達成感を味わう。	
(2) 生徒の部活動への意欲を高める。	
(3) 顧問の指導技術の向上に生かす。	
2 任期	
任期はその年度の3月31日までとする。ただし、再任は妨げない。	
3 委嘱	
委嘱は校長が行い、委嘱状を交付する。	
4 内容	
(1) 技術指導を担当し、十分教育的な配慮をする。	
(2) 顧問との意思の疎通を十分に行う。	
(3) 指導計画は外部指導者と顧問とで作成し、計画に基づいて協力して指導にあたる。また、その計画・活動内容は、学校の部活動規定の範囲内とする。	
5 連絡会議	
(1) 外部指導者との連携を図るとともに、活動上の改善点を明確にするため連絡会議を開催する。	
(2) 会議は、5月・10月・3月の年3回とする。ただし、校長が必要と認める場合には、会の招集を行うことができる。	
(3) 会議のメンバーは、校長・教頭・生徒指導主任・部活動担当教員・当該部活動顧問・外部指導者・保護者代表とする。	
(4) 会議の内容については、教職員及び保護者に対して知らせることを原則とする。	

委嘱状 (例) 様

あなたを本校\_\_\_\_\_部の外部指導者に委嘱します。

任期は平成〇年3月31日までとする。

平成〇年〇月〇日  
〇〇学校長 □□□□

## 4 保護者や地域と連携した実践

これからの部活動は、より開かれた運営をしていくことが求められています。

学校は、保護者や地域へ部活動についての方針や現状等の情報を積極的に発信し、理解を得ながら、連携協力していくことが大切です。

「保護者・地域との連携」の中から部活動への理解と協力を得るための実践として、「部活動通信」「部活動参観」「部活動保護者会」などがあります。

### (1) 家庭とつながる部活動通信

生徒にとって、部活動は学校生活の中心となる活動の一つであり、生徒の多くは部活動を大変楽しみにしています。また、保護者も教科の学習とともに、部活動には大きな関心をもっており、友達と仲よく活動し、技術を身に付け、心身ともにたくましくなることを願っています。部活動のことが、家庭でよく話題になるとはいつても、子どもとの会話だけでは部活動の情報としては十分とはいえません。そこで、部活動についての理解と協力を得るため、部活動ごとに月1回程度、部活動通信を発行するなど保護者に十分な情報を伝えます。毎日の活動の様子、大会や試合の連絡だけでなく、工夫した内容で家庭とのつながりを一層強くすることも期待できます。

下表は、練習試合での生徒たちの活躍を中心に試合経過を載せた部活動通信(野球部)の例です。生徒一人ひとりの活動の様子をできるだけ取り上げるようにして、応援に行けなかった保護者にも配慮します。

野球部通信 (〇〇中学校 野球部)									
									No.〇 2006. 5. 〇
名門チームに連勝									
3連休の初日5月3日、穏やかな日和に恵まれ〇〇遠征が行われた。本校は、□□中学校、△△中学校と対戦した。両校とも、昨年の県大会でベスト4に入る野球の名門校であり、□□中学校は中国大会へも出場している。									
今回の遠征では、「実力校との対戦に持てる力を発揮する」というテーマをもって臨んだが、本校ナインは実力校におくすることなく、力を出し切ることができた。									
【〇〇中学校vs□□中学校】									
本校打線は好調を維持し、制球に苦しむ□□中学校投手陣を攻めたてた。									
1回4連続四球とA君の走者一掃三塁打でまず4点。さらに、B君のうれしい今季初ヒットが2点タイムリーになるなどで、一挙に計6点を先取した。									
2回に□□中学校4番打者のホームランにより2点を返されたが、4回にはC君の2点タイムリーヒット、5回にはD君の駄目押しタイムリーヒットで勝負を決めた。									
久々に先発したE君は、立ち上がりのストレートを積極的にねらわれたが、その後、カーブを有効に使った投球に切り替えて、3回以降を完封した。									
TEAM	1	2	3	4	5	6	7		計
〇〇中学校	6	0	0	2	1	0	0		9
□□中学校	0	2	0	0	0	0	0		2
【〇〇中学校vs△△中学校】									
...									

## (2) 子どもの姿に接する部活動参観

家庭で部活動のことがよく話題になるとはいつても、大会や試合の子どもの様子を見に行けない保護者がいます。また、子ども自身も親に見られることをいやがるという年齢でもあり、見に行きたいと思っても子どもに遠慮して行かない保護者もいます。

このため、顧問として日頃から、部活動の様子を参観するよう保護者へ積極的に働きかけたり、授業参観後に部活動参観を加えたりすることも必要です。特に、校舎内での活動が中心となる文化部等では、保護者が参観しやすい状況を設定できます。

保護者に部活動を理解してもらうとともに、学校と家庭の両方で、子どもの活動を温かく見守っていくという雰囲気をつくる必要があります。

今日の初めての部活動参観で、子どもたちががんばっている姿を見て、自分も仕事がんばろうという気持ちで帰宅することができました。

元気のいい声、一生懸命にボールを追う姿は、本当に素晴らしい活動です。これからも一生懸命に子どもを支えていこうと思いました。

(中学校保護者)

## (3) 理解を深める保護者会

保護者の考えを聞き入れ、よりよい部活動を展開するために学校として開催するのが部活動保護者会（部活懇談会）です。部活動通信で部活動の情報を伝え、部活動参観で子どもの様子を見てもらい、この保護者会で情報交換を行い、部活動に対する保護者の理解を深めることができます。子どもたちの活動を中心にとり、いろいろな問題を解決する糸口となることなどが期待できます。特に新入生の保護者にとっては、部活動の不安を解消するためのよい機会となります。

このような保護者会を通して、保護者同士のつながりをもつとともに、学校と家庭との連携を一層強める必要があります。

### サッカー部 部活動保護者会資料

平成19年5月 日

- 1 あいさつ (顧問 ○○○○ 副顧問 ○○○○)
- 2 部員について 1年生…12名、2年生…16名、3年生…10名、計 38名
- 3 保護者の自己紹介
- 4 協議事項
  - (1) 活動について
    - ア 活動時間 4月～新人戦 6時15分 ※下校時間は各時間の15分後とする  
新人戦～1月 5時00分  
2月～3月 5時30分
    - イ 休養日 原則として月曜日(ミーティング30分間)
  - (2) 各種大会
    - ア 中体連主催大会 4月 市春季大会 5月 春季県体  
6月 市選手権予選 7月 県選手権 市秋季大会  
10月 県秋季県体、市新人
    - イ 協会主催・招待試合 ○月 ○○招待 1年生大会
  - (3) 必要経費  
ユニフォーム ○○○円、ストッキング ○○○円、協会登録費(希望者のみ) ○○○円
- 5 その他
  - (1) ○○○・・・

# 資 料

## I 部活動の約束

健全育成、規範意識、帰属意識、能力・個性の伸長、ボランティア精神の育成などが顧問の役割だと考えています。生徒たちは、部活動での「約束事」を決めて取り組んでいます。  
(高等学校 顧問)

### 〇〇高等学校 〇〇〇〇部 10ヶ条

- 1 部員である前に本校の生徒であることを忘れない。
  - ・学校の規則を守り、授業をしっかり受ける。
- 2 仕事をしっかりする。
  - ・指示された仕事をするのは当たり前。自分で仕事を探す。
- 3 あいさつをする。
  - ・先生、OB、来校者、地域の方々にしっかりあいさつをする。
- 4 返事をする。
  - ・声を出して「はい」「いいえ」をはっきり言う。
- 5 練習場所はいつもきれいにする。
  - ・体育館は、練習の前後に必ずモップがけをする。
- 6 部室を大切に使う。
  - ・部室は学校から借りたものという意識をもつ。
  - ・部室はいつも整頓（せいとん）してきれいに使う。
- 7 時間厳守（有効活用）
  - ・練習開始時刻を守る。集合・移動は駆け足で行う。
- 8 欠席の場合は連絡をする。
  - ・急に休むことになった時などは、必ず連絡する。
- 9 物を大切に使う。
  - ・ユニフォーム、ボール、シューズ等は大切に扱う。
  - ・紛失しないように部員全員で気をつける。
- 10 身だしなみをきちんとする。
  - ・強いチームは服装でわかる。ユニフォームをきちんと着る。

いつも「全力」、みんなで「協力」、自分の仕事に「責任」をもとう！

## Ⅱ 自己点検健康管理シート

### □ 健康管理の方法例

#### 自己点検健康管理シート

氏名

平成	年	月	日 ( )	天候 ( )
昨夜の就寝時刻	時	分	これでよいと ( 思う ・ 思わない )	
今朝の起床時間	時	分	これでよいと ( 思う ・ 思わない )	
睡眠時間	時間	これでよいと ( 思う ・ 思わない )		

- ①朝食をしっかり ( とった ・ とらなかった )
- ②練習開始時刻に遅刻 ( しなかった ・ した )
- ③練習内容を理解して取り組むことが ( できた ・ できなかった )
- ④練習に集中して取り組むことが ( できた ・ できなかった )
- ⑤リフレッシュ時に切り替えが素早く ( できた ・ できなかった )
- ⑥積極的に声を出して雰囲気盛り上げることが ( できた ・ できなかった )
- ⑦スタミナをつけることを意識して走ることが ( できた ・ できなかった )
- ⑧今日の練習で良かった点

--

- ⑨今日の練習で改めたい点 ( 反省すべき点 )

--

### Ⅲ メッセージノート、自己評価カード

#### □ 心と心をつなぐメッセージノートの例

平成19年 8月 日 ( ) 天候(晴れ) 氏名		
仲間の素晴らしさ	課 題	保護者のメッセージ
○○君のブロックが決まるようになった。 ○○君△△君の声がとても大きかった。 △△君の陰の力がチームに大きな影響があると思う。	ジャンプサーブの確率が低いので高くする。 ケガをしない。 <b>先生の話(心に残ったこと)</b> 一つひとつのパスも相手の立場に立って、いいパスをしてあげよう。	バレーの仲間の良さや目標に向かって負けじと頑張る気持ちや、つらいことを克服できる楽天性をとてもうらやましく思う母親です。子どもを見習わなくては……。
先生から	入部から、ずっと○○君から私ともども全部員が学ぶことばかりです。プレー以上のものは、どこで身についたのか。家庭でしょうね。	

#### □ 自己評価カードの例

○○○○部		3年A組 番			氏名 ○○ ○○	
No.	項 目	評 価				
		1週	2週	3週	4週	5週
1	活動の始めと終わりの時間を守ることができましたか?	3	4	4	3	3
2	あいさつとや返事が大きな声でできましたか?	5	5	5	5	5
3	自分のめあて(課題)を持ち活動できましたか?	5	5	5	5	5
4	自ら進んで(やらされることがない)取り組みましたか?	5	5	5	5	5
5	「あ、わかった」「ああ、そうか」と思ったことがありましたか?	5	5	5	5	5
6	技術や体力を伸ばすことができましたか?	5	5	5	5	5
7	仲間と力を合わせて仲よくできましたか?	5	5	5	5	5
8	用具の片付けがテキパキとできましたか?	5	5	3	3	5
9	先週の部活は楽しく充実していましたか?	5	5	5	5	5
10	健康・安全に注意して活動できましたか?	5	5	5	5	5
* 次の基準で評価し、点を記入すること。(活動日数が4日以下の場合は、基準が異なる。)						
1週間のうち、5日以上できた・・・5点 3日～4日できた・・・3点 1日～2日できた・・・1点 1日もできなかった・・・0点						

## IV 指導日誌

### □ 指導日誌の例

指導する立場の顧問としての日誌であり、部員一人ひとりの実態を把握するとともに、練習計画の改善や効果的な指導に生かすことができます。

### 指 導 日 誌

平成 年 月 日 ( )	天候		練習場所	体育館 (卓球場)
欠席・遅刻・早退 (理由)	早退 ○○ ○○ (歯科通院)	健康 状態	○○ 体調不良 (風邪) 練習を制限させる	
練習時間	15 : 45 ~ 18 : 30	来校者	卒業生 1 名 (○○ ○○)	
練習内容 (試合結果等)	ウォーミングアップ、素振り、シャドープレイ、多球練習 (ダブルスをいれる)、基礎練習 (前後左右のフットワーク)、応用技術 (台上攻撃)、サーキットトレーニング、クーリングダウン、ショート・ミーティング			
部員の変容の記録	○○については、台上のレシーブ時の手首の使い方がうまくなっており、台上攻撃が積極的にできるようになった。(ダブルスの強化)			
指導の反省・課題	風邪気味の部員が多いせいか、基礎練習の中で動きの悪さと集中力に欠ける場面が見られた。自己の健康管理をしっかりとさせるようにする。			

## V 個人カード

### □ 個人カードの例

指導日誌とともに、顧問が活用するものであり、学級担任との連携を密にし、進路指導、生活指導をしていく上での資料となり、競技成績等を記録として残すことにより、今後の指導に生かしていくことができます。

また、部活動中の事故などの緊急な場合に活用することができます。

### 個人カード

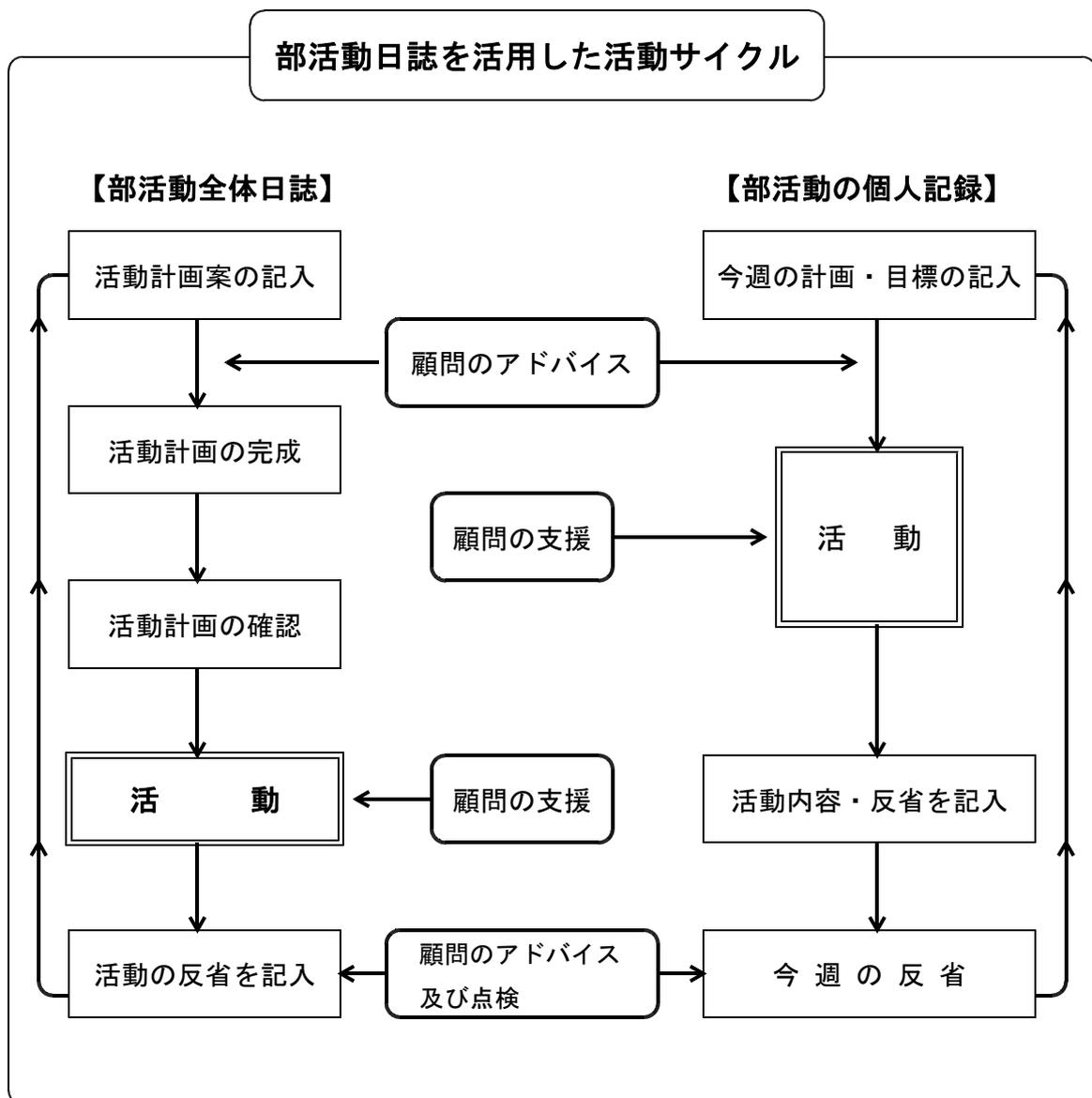


1年組番担任		ふりがな 氏名	家庭緊急連絡先			
2年組番担任			_____			
3年組番担任			TEL ( ) - 携帯 000-0000-0000			
出身校	中学校	競技成績(中学)				
目標			進路希望			
高1年	競技成績			学習の状況		
高2年						
高3年						
通学方法		距離	約	km	時間	時間 分
* 自宅付近の略図（最寄りの公共物を明示する）						

## VI 部活動日誌及び個人日誌の活用

次の図は、部活動全体日誌と部活動の個人記録（個人日誌）を活用した、主体的な活動のためのサイクルを表したものです。

部活動全体日誌では、活動計画の立案の際に、顧問がかかわり、合理性や効率的な面を考えてアドバイスします。決定した活動計画は、ミーティングでキャプテン（部長）を中心に部員全体で確認します。活動時にも適宜アドバイスを行います。生徒の自主性を尊重する意味からも指示的なことはできるだけ少なくするよう心がけたいものです。活動後のミーティングや日誌の点検においても、次回の活動において、個々の課題解決のためのヒントをアドバイスしたり、悩み事の相談に応えたりすることが大切です。



## Ⅶ 新入部員オリエンテーション資料

### □ 新入部員オリエンテーション資料の例

新入部員に対して、入部時にしっかりとオリエンテーションを実施することで、生徒は安心して活動を開始することができます。部活動紹介の一貫として、先輩の思い、顧問の指導・援助の方針も伝えていきたいものです。

#### □□中学校 吹奏楽部員として

新入生オリエンテーション資料 1

ようこそ吹奏楽部へ！上級生一同、顧問、心から歓迎します。

さて、皆さんは「□□中学校吹奏楽部」の正式なメンバーです。この吹奏楽部には、他にはない特徴がたくさんあります。ここに書いてあることは、どれも吹奏楽部員にとって大切な心構えばかりです。卒業するまで、心にとどめておいてください。

#### (1) 自覚と誇り

私たち吹奏楽部は、入学式や卒業式、体育祭や文化祭などの学校行事で演奏の機会を与えられています。すなわち、学校や地域から、絶大な信頼を寄せられているのです。

「自分は吹奏楽部の一員なんだ！」という自覚と誇りを忘れず、力を合わせて誰からも愛される部をつくっていきましょう。そうした自覚と誇りがあれば、ルールを守り、マナーを大切にすることも当然のこととしてできるはずです。

#### (2) 優しさと思いやり

吹奏楽部はみんなが協力して一つの音楽をつくりあげる部活動です。他人の気持ちを尊重し、大切にしたい思いやりが必要です。他人を無視するとか、いじめるとかはもちろんのこと、悪口や陰口を言うなど論外です。困っている人に進んで手を差し伸べてあげられるような優しさをもつ人が、聴く人の心を感動させられる、素晴らしい音楽を奏でることができるのです。

#### (3) 協調性と連帯感

吹奏楽部は、みんなで一つの音楽をつくる部活動です。周囲と音を合わせて演奏するのが合奏です。それは、仲間と気持ちを合わすことから始まります。

また、吹奏楽部では1年生から3年生ままで、全員レギュラー選手です。皆と一緒に練習し、皆と一緒にいろいろな体験をすることによって、皆と同じ感動を味わうことができるのです。いつも「仲間とともにいる自分」を意識してください。自分だけの世界や個人的なことは、後回しです。

#### (4) 礼儀とさすがしさ

あいさつや返事は、気持ちを込めてはきはきとしてこそ意味があります。先生方に対して、職員室の出入りの時、地域の方に対して、そして仲間に対して・・・礼儀正しく、さわやかな声を響かせましょう。また、そうした実践が、□□中学校全体を明るく活力ある学校にするのです。

#### (11) 学習との両立

「部活動が忙しくて学習できない」も「学習しないといけないから部活動ができない」も両方とも正しい意見でしょうか。学習と部活動を両立させることは、簡単にはできることではありませんが、時間の使い方の工夫や、集中力を高めることなどによっては両立できるものです。授業や家庭学習を効率的にやり遂げられる人は、部活動でも自分自身が工夫し、上達していく人が多いものです。

吹奏楽部スローガン

**「輝く仲間 豊かな音楽 呼ぶ感動」**

## VIII 運動部活動における安全対策資料

### 各部の運動特性を踏まえた具体的な安全対策

#### 1 チェック

部活動を振り返り、危険な活動場面及び施設・設備についての**チェック項目を洗い出す。**

- 例
- a 竹刀の劣化やささくれができていないか。
  - b サッカーゴールが固定されているか。
  - c 安全な状況での中的確認がなされているか。
  - d 気象情報の確認はされているか。
  - e 心の緩みがないか。

#### 2 確認

チェック項目に基づいて状況等を**生徒とともに確認する。**

#### 3 対策

不備な内容については、保護者の意見も参考にしながら、生徒とともに**具体的な安全対策を講ずる。**

- 例
- a 練習の前に竹刀の劣化やささくれがないか、顧問及び複数の生徒の目により確認（二重チェック）する。
  - b サッカーゴールが固定されているか、顧問及び複数の生徒の目により確認（二重チェック）する。
  - c 中的確認をする者が安全な位置にいて、赤旗等が設置され、適正に使用されているか、顧問及び複数の生徒の目により確認（二重チェック）する。
  - d 顧問が練習前や練習中に、注意報や警報等をはじめとする気象情報を確認する。
  - e 練習前に、キャプテンや顧問を中心に、安全に関するモチベーションを高めるための声かけを行う。

#### 4 情報共有

部活動における安全対策についての情報を顧問・生徒・保護者で共有することはもちろんであるが、万全を期すために教職員間でも**情報を共有する。**

※ 保護者の意見を参考にするため、学校と保護者の連携協力による安全体制を整備する。

（例：「部活動通信」等に保護者の意見を求める欄を設けるなど、双方向の情報交換ができるようにする。）

## Ⅸ 体罰事例に見られる課題

昨今の多様化している生徒の状況を見ると、教員と生徒がぶつかり合う事態が起こりうることは想像されるどころです。

実際に、学校現場で体罰に及んだ事例を見ても、積極的に生徒と関わり合う中で、教員が起こした事例も少なくありません。厳しい先生が少なくなったとの声も聞こえる中、生徒とのかかわり方について、体罰事例から見た課題と根絶に向けた方策を提案します。

### ※事例から見た体罰の発生状況

- ① 生徒を指導しようとしたが、それが受け入れられなかったことから、腹を立てて思わず殴ってしまった。

#### 【解説】

- 生徒を指導したが、当該生徒が指導に従わなかったり、反抗したりしたことから、腹を立てて体罰に及ぶケースです。
- 教員としての生徒指導の力量を問われることも多いケースです。

- ② 悪いこと(危ないこと)をした子どもに対しては、厳しく指導する必要があるということから、罰を与える意味でげんこつで頭を殴った。

#### 【解説】

- 生徒の行為を問題にして、制裁の意味で体罰に及ぶケースです。
- 体罰を指導と勘違いをしており、生徒に自分自身の非をどのようにして分からせるかが課題となります。

- ③ 部活指導中、生徒が集中力を欠いたプレイをしたことから、気合を入れる意味で平手で頬(ほお)を殴った。

#### 【解説】

- 部活動の指導の中で見られるケースです。
- 生徒の集中力を高め、瞬発的な力を発揮したり、ケガをしたりしないようにするといった理由で行われることが多いようです。
- 生徒の意欲や集中力をどのように高めることができるかといった指導者の指導力が課題となります。

体罰が発生する状況は、個別に様々な問題を抱えていることが多く、単純に分類することは難しいが、多くは、前記①～③の状況が重なり合った形態のものです。

これ以外にも、「④乱暴な言葉遣いや態度で、生徒を威嚇するかのよう言動をとる」中で体罰に至るようなケースも見られます。

また、体罰が発生しやすい状況を作り出す学校の体制の問題として、「⑤特定の教員（生徒指導主任、若手の教員など）だけが中心となって厳しく指導」しているが、その他の教員はあまり指導しないという状況が見られることもあります。このような風潮がある学校においては、得てして体罰に近い行為を容認する風潮が見られます。

さらに、学校外の問題として、部活指導等の中で、「⑥少々の体罰は容認するような保護者の雰囲気があるなどの状況」が見られる場合もあります。

#### 【課題】

- 体罰によるのではなく、児童生徒が意欲を持って活動できるような指導方法を、個々の教員が身に付けることが必要です。
- それぞれの教員が、その人なりの児童生徒をしかったり、説諭したりする技術や知識を持つことが必要です。
- 校内で生徒指導の理念や方針が統一され、共通に認識された基で、個々の教員が生徒や保護者に、教員自身の言葉で伝えられることが必要です。



#### 【提案】

- ① 児童生徒の指導方法について、意識的、継続的な研修を
  - 生徒指導の中で、児童生徒の話聞くこと、悪いことは悪いときちんとしかることで、筋道を立てて説諭するなど、教員としての基本的な指導方法について、学校や個人でも、意欲的に研修を行います。
  - 児童生徒が意欲的に取り組むよう指導し、結果を出している部活動指導者などから、その手法を学びます。
  - 体罰を行った教員は、体罰を使わない自分の指導方法を確立することを課題として、意識的に取り組み、その結果を出します。
- ② 児童生徒の指導は、組織としての対応を
  - 児童生徒の指導を特定の人に任せず、全員で指導する体制を作ります。
  - 学校として児童生徒を指導する方針を意思統一し、全員が同じように取り組むことが必要です。それによって教員組織の自浄作用も出るようになります。
  - 部活動は個別な活動となることも多いことから、管理職が見て回るなどして、それぞれの活動の状況をきちんと把握し、必要に応じて全体で話し合ったり、個別の指導を行ったりします。

## X 運動部活動顧問セルフチェックシート

### □ 運動部活動顧問セルフチェックシートの例

#### 運動部活動顧問セルフチェックシート

★☆☆運動部活動の指導について当てはまらないか、チェックしてみましょう！☆☆

##### 【課題を残す指導】

- 試合には、絶対に負けたくない。何としても勝ちたい。そのためには、厳しい指導は当然であり、頭ごなしに生徒を叱（しか）ることもある。
- 顧問の役割は、部員により高い競技力や技術力を身に付けさせることである。これ以外に部員に求めるものはない。
- 自分自身の競技力にも、指導力にも自信をもっているため、他の顧問や保護者の意見は聞く必要がない。もちろん、部員は自分の指示に従うべきである。
- 他校に勝つためには練習あるのみ。他校が練習しているのに休んでいては、絶対に勝てない。休養日など必要ない。
- 運動部活動では、何よりも規律を最優先すべきである。ずる休み、遅刻をする生徒や、後片付けをしない生徒は、上級生などから一方的に厳しく指導されても仕方がない。
- 運動部活動指導において、言葉遣いがきつくなることはやむを得ない。  
例えば、「こんなこともできんのか」、「やる気がないなら帰れ」、「勝つつもりがあるのか」、「もう来んでもええ」などと口にする。
- 試合や大会で負けると、指導者として結果を素直に受け入れられない。
- そのようなとき、今までの生徒の努力を評価することができず、生徒のミスや欠点ばかりが目につき、生徒を怒ってしまいがちである。

##### 【セクハラ】

- 特定の部員を多く指導することがある。
- 異性の部員を個別指導する際に、配慮していない。

##### 【会計処理】

- 部費の会計管理は、すべて顧問一人で行っている。
- 各家庭等から徴収した部費については、会計報告を行っていない。

※ チェックが付いた項目について、もう一度考えてみましょう。

## 引用・参考文献等一覧

- 「中学校学習指導要領解説 保健体育編」平成16年度一部補訂 文部科学省
- 「高等学校学習指導要領解説 保健体育編体育編」平成16年度一部補訂 文部科学省
- 「みんなでつくる運動部活動 -あなたの部に活かしてみませんか-」平成11年3月 文部省
- 「運動部活動指導の手引」平成19年3月 熊本県教育委員会
- 「運動部活動指導資料」平成19年 岡山県教育委員会
- 「第31集 学校体育指導資料 『望ましい運動部活動の在り方』（改訂版）（一部改訂）」  
平成17年11月 茨城県教育庁保健体育課
- 「『誰もが参加したくなる運動部活動』実践研究報告」平成19年3月 神奈川県教育委員会
- 「問題行動等対応マニュアル ～児童生徒・保護者との信頼関係の一層の構築をめざして～」  
平成19年2月 山口県教育委員会
- 「部活動基本問題検討委員会報告書」平成17年10月 東京都教育委員会
- 「部活動顧問ハンドブック -児童・生徒の充実した学校生活の実現に向けて-」  
平成19年4月 東京都教育委員会
- 「21世紀のスポーツ指導者 -望ましいスポーツ指導者とは-」  
平成17年3月 (財)日本体育協会
- 「運動時における安全指導の手引（総論編）」平成14年3月 神奈川県教育委員会
- 「伝えたい陸上競技の心」平成19年7月 武山正伸 日興書籍株式会社